

市長コラム

～今こそ地域連帯～

Vol.33



★当市の「秋のイベントシーズン」を通して感じたこと

秋を迎え、9月から10月にかけて多様なイベントが開催されました。9月30日の「しうらグルメカーニバル in 道の駅十三湖高原」、10月1日の「キッズフェスタ2023 in 五所川原」、そして10月7日の「ホコ天マルシェごしょがわら」など恒例のイベントのほか、新しい企画として「ごしょがわら昼市×夜市」など市民グループによる手づくりのイベントも生まれています。こうした動きは、コロナ後の地域経済の再始動と地域活性化に大きな意義を持つものであり、大変喜ばしく感じています。

今回のコラムでは、私がこれらイベントを通して感じていること、期待することを申し上げたいと思います。

★地域イベントのあるべき姿と「活動人口」の増加の必要性

今年度の私の施政方針の中で「民間が主体となって地域を元気づける活動をより一層活性化させ、子どもから高齢者まで多くの市民が活躍する『活動人口』を増やしていきたい」と申し上げました。

昨今の急速に進む人口減少の中で、社会を支える人的資源が確実に減少し、官は官、民は民という縦割りの構図の中では、これまでのノウハウを維持できるような社会構造ではなくなっています。そのため、官と民、多様な主体が連携しノウハウを持ち寄って、共に創っていく社会を構築することが地域全体の活力を底上げし、持続可能な地域社会を下支える最大の要素の一つであると考えます。そういう思いのもとで、しっかりとお互いに顔の見える連携ができるように、数多くのイベントを仕掛けてきました。

ここで特に紹介したいのは、道の駅「十三湖高原」で行われた「しうらグルメカーニバル」です。このイベントでは、地元でブランド化が進んでいる「市浦牛」を使った「牛丼」「牛すじカレー」、今年から新たに仲間入りした「チーズハンバーグトマトソース掛け」の3つのグルメを競うという発想で実施しており、さらに「大漁しじみ汁・漁師風」など市浦ならではのグルメのほか、五所川原商工会議所女性会の「ごしょ山宝汁」も出店し、いずれもお客さんの長蛇の列ができ、すべて早々に完売するという好評ぶりでした。

イベントの意義として「にぎわい」も重要ですが、一つのイベントを通して、地域の住民、関係団体が一つになる、そこに大きな価値があると思っています。

準備の段階から、市浦商工会および十三漁協の皆さん、そして、行政も市浦総合支所の職員など、市浦地域の総動員で取り組んでおり、それが見事に結実した成功事例であると思います。道の駅「十三湖高原」指定管理者の株式会社トーサムの社長が「お客様に喜んでもらうためには、やる側の自分たちが楽しむことが重要なんです」と話していました。

この姿こそが、今、仕掛けているイベントの狙いであり、私の願うところでもあります。そういう状況を作り出していくため、私の思いを主催団体や実行委員会にお願いしつつ、これからもイベントを一つのツールとして、各地域に「活動人口」がどんどん増えていくことを期待しています。

このコラムをご覧になり、自ら企画してイベントをやりたいという方は、積極的に行動していただき、地域の関係者を巻き込むような意識が育まれることを願っています。

★「キッズフェスタ2023 in 五所川原」大盛況でした！

10月1日に開催された「キッズフェスタ2023 in 五所川原」は、昨年度とは場所を変えて市民体育館と菊ヶ丘運動公園を主会場に、昨年を大きく上回る1,700人を超える来場者で大いににぎわいました。本イベントは、子育て支援団体等で構成する「子ども・子育てフェスティバル実行委員会」が主体となって企画運営しており、昨年以上の盛り上がりを見せたことは誠に喜ばしい限りです。

昨年の初開催の際に「各団体がお互いに顔の見えるつながりを構築し、各団体の連携をより深めていただき、市全体でより厚みのある『子育てに強いまちづくり』を進めていきたい」という私の思いを、関係団体と共有しスタートしたのですが、しっかりとその願いが実を結び、成果として表れているものと思います。改めて、実行委員会の皆様のご尽力に深く感謝申し上げます。

これからも社会の宝である子どもたちを「地域全体で育てる」という思いのもと、子育て環境の整備に取り組んでいきたいと思っています。



「しうらグルメカーニバル in 道の駅十三湖高原」の様子



今年度の「ホコ天マルシェごしょがわら」の様子